

ニューノーマル処方箋(第50回)

若者世代は特に不調！？従業員のメンタルヘルスは大丈夫？

2024.07.24



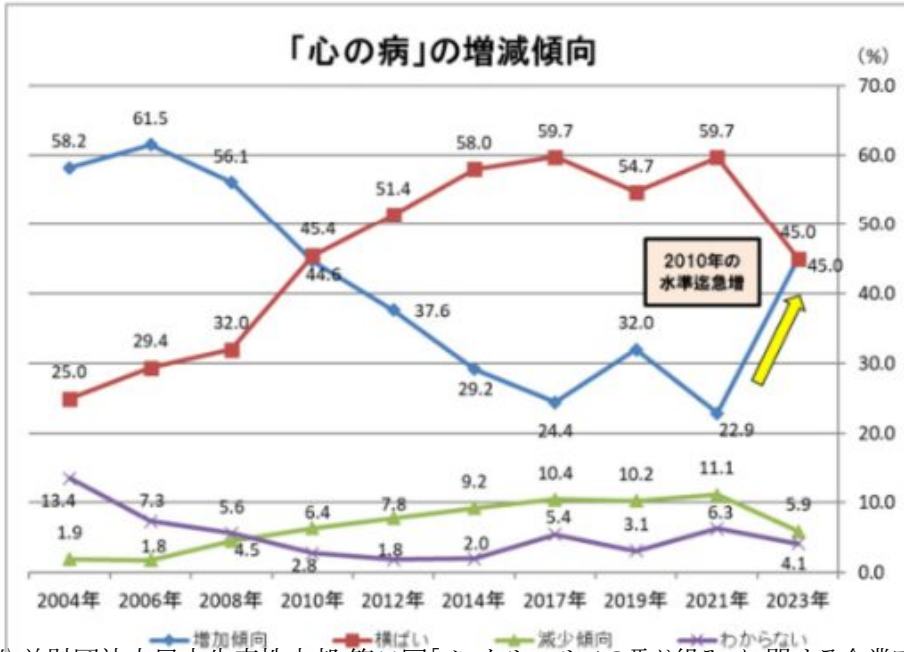
<目次>

- ・若手従業員の多くは、心の病を抱えているかもしれない
- ・4割の企業は、従業員のメンタルヘルスを放置している？
- ・講じるべきメンタルヘルス対策は、業界によって異なる

若手従業員の多くは、心の病を抱えているかもしれない

ビジネスパーソンは誰も、仕事を続ける中で何かしらのストレスを抱えるものです。しかし、ストレスを抱えすぎた場合は心身に異常をきたし、働き続けられない恐れがあります。

従業員がメンタルヘルスの問題を抱えている企業は、決して少なくないようです。公益財団法人日本生産性本部が2023年11月に発表したメンタルヘルスに関するアンケート調査によると、「自社における『心の病』が増加傾向にある」と回答した企業の割合は、前回調査(2021年)の22.9%から、45.0%へと大幅に増加しました。同時に、『心の病』が減少傾向にあると回答した割合は、前回調査の11.1%から5.9%に下落しています。



公益財団法人日本生産性本部 第11回「メンタルヘルスの取り組み」に関する企業アンケート調査結果概要より引用

『心の病』を年齢別に見ると、10～20代と回答した割合が45.9%と最も多く、前回調査の29.0%から10ポイント以上も増加しています。以降、30代(26.8%)、40代(21.3%)、50代以上(7.9%)の順に続きます。

同調査ではこの結果について、コロナ禍で入社した若手層が、テレワークで対人関係や仕事のスキルを十分に積み上げることができず、かつ2023年5月に新型コロナウイルスが2類から5類に移行し、テレワークからオフィスへの出社を求められたため、職場が大きなストレスになっている可能性があるとの分析をしています。

4割の企業は、従業員のメンタルヘルスを放置している？… 続きを読む